ISSN 0285-6352

日本語と日本文学

第 20 号

建暦・建保前半の藤原家隆の一面……名子喜久雄……(1)
——「内大臣家百首」・「内裏名所百首」を中心として——

『鎌倉大草紙』から御物絵巻『をくり』へ ……木村　晃子……(13)
——小栗譚の発生と形成——

吉野における讃歌の継承……遠山　一郎……(22)

家持の「感旧之意」……西　一夫……(33)
——池主に贈るほととぎすの歌——

漱石「方丈記小論」私注(一)……下西善三郎 …(左1)

名詞性をもつモダリティの不定形式について…加藤　陽子 …(左12)

言語の指導を中心とした国語教育……河原塚　努 …(左22)
——言語教育からみた生徒の理解力・表現力の育成について——

読みの正当性を支える根拠……松本　修 …(左27)
——ジャック・デリダに見る読みの実践——

平成 6 年 9 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

一、投稿論文は三十枚程度
一、原稿〆切は毎年二度、二月末日および八月末日。
一、原稿送り先
〒305 茨城県つくば市天王台一―一―一
筑波大学文芸・言語学系事務室内
『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

昭和六十一年総会で『日本語と日本文学』誌の年二回発行が決まりました。これは創刊当初に計画しました最小発行回数をようやく実現できたものであります。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教官および学生の三者が一体となって、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものであります。従いまして、増刊されました本誌の一層の充実は、以前にも増してこの三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。

編集後記

学会の財政事情からこの二〇号の発行が大巾に遅れましたことをまずお詫び申し上げます。皮肉なことに、年二回の発行が危ぶまれるようになってから学外のOB会員による力作の投稿が多くなりました。次号に回っていただくことを余儀なくされた論文がすでに数本、編集委員会の方に保管されております。編集委員会としては、今後の機関誌に関する学会の方針がすみやかに決定されて、すぐれた論文をできるだけ早く公表させてあげたいと願うばかりです。次の二一号の発行のめどがいまだに立っておりません。九月の総会において明確な方針が出されることを、またそのためにも、学会の財政が健全になることを祈っております。しかし、この困難な時期を乗り切れば、明るい展望がひらけてくるものと確信しております。

平成六年九月一日印刷
平成六年九月一日発行
編集・発行 〒305 茨城県つくば市天王台一―一―一
筑波大学 文芸・言語学系内
筑波大学国語国文学会
代表者 桑原博史
印刷所 ニッセイエブロ株式会社
Tel 〇二九八(五一)七六五二